

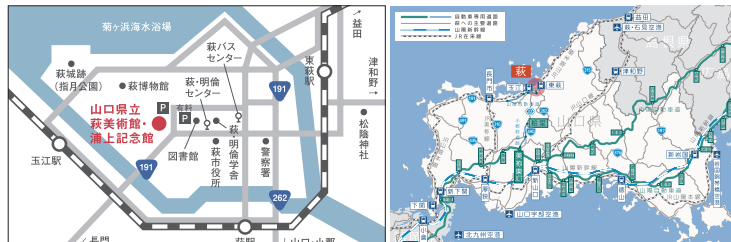
令和3年度(4月~6月) 日程表 **Schedule**

2021	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
4	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	
4	〈展示室1〉普通展示(浮世絵):雪月花一花一(〜4/18)																		〈展示室1〉普通展示(浮世絵):橋口五葉(4/20〜5/23)												
	〈展示室2〉普通展示(東洋陶磁):やきものの装飾 刻む・彫る・印す・割る(〜5/23)																														
	〈展示室3〜6〉第44回 山口伝統工芸展(4/10〜4/18)																		※1												
	〈展示室7〉普通展示(陶芸):オブジェ陶造形の潜勢力IV(〜2022.3/6)																														
	〈展示室8〉普通展示(陶芸):十三代 三輪休雪の茶陶(〜6/27)																														
	〈特選鑑賞室〉東洲斎写楽 二代目中島三甫右衛門と初代中村富十郎(4/1〜4/30)																														
	〈茶室〉和田的「CONTRAST—光と陰—」(4/3〜2022.3/27)																														
	※1:〈展示室3〜6〉特別展示:ブダペスト国立工芸美術館名品展 ジャポニスムからアール・ヌーヴォーへ—日本を夢見たヨーロッパ工芸(4/24〜6/20)																														
5	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
5	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月
	〈展示室1〉普通展示(浮世絵):橋口五葉(〜5/23)																		〈展示室1〉普通展示(浮世絵):HOKUSAI★MANGA(5/25〜6/27)												
	〈展示室2〉普通展示(東洋陶磁):やきものの装飾 刻む・彫る・印す・割る(〜5/23)																		〈展示室2〉普通展示(東洋陶磁):やきものの装飾 彩色(5/26〜9/5)												
	〈展示室3〜6〉特別展示:ブダペスト国立工芸美術館名品展 ジャポニスムからアール・ヌーヴォーへ—日本を夢見たヨーロッパ工芸(〜6/20)																														
	〈展示室7〉普通展示(陶芸):オブジェ陶造形の潜勢力IV(〜2022.3/6)																														
	〈展示室8〉普通展示(陶芸):十三代 三輪休雪の茶陶(〜6/27)																														
	〈特選鑑賞室〉鳥高齋栄昌 お高祖頭巾(5/1〜5/30)																														
	〈茶室〉和田的「CONTRAST—光と陰—」(〜2022.3/27)																														
	※2:〈展示室1〉普通展示(浮世絵):小林清親—光線画の時代(6/29〜8/1)																		※3:〈展示室8〉普通展示(陶芸):涼を誘うかたち(6/29〜9/5)												
6	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
6	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	
	〈展示室1〉普通展示(浮世絵):HOKUSAI★MANGA(〜6/27)																		※2												
	〈展示室2〉普通展示(東洋陶磁):やきものの装飾 彩色(〜9/5)																														
	〈展示室3〜6〉特別展示:ブダペスト国立工芸美術館名品展 ジャポニスムからアール・ヌーヴォーへ—日本を夢見たヨーロッパ工芸(〜6/20)																														
	〈展示室7〉普通展示(陶芸):オブジェ陶造形の潜勢力IV(〜2022.3/6)																														
	〈展示室8〉普通展示(陶芸):十三代 三輪休雪の茶陶(〜6/27)																		※3												
	〈特選鑑賞室〉歌川広重 名所江戸百景 市中繁栄七夕祭(6/1〜6/30)																														
	〈茶室〉和田的「CONTRAST—光と陰—」(〜2022.3/27)																														
	※2:〈展示室1〉普通展示(浮世絵):小林清親—光線画の時代(6/29〜8/1)																		※3:〈展示室8〉普通展示(陶芸):涼を誘うかたち(6/29〜9/5)												

- ★ イベント
- 開幕記念講演会(聴講無料)  
 日時●4月24日[土] 13:30〜15:00  
 講師●カプリエラ・パッラ氏  
 (ブダペスト国立工芸美術館キュレーター、本展監修者)  
 会場●講座室  
 定員●40名(要事前予約・申込先着順)
- 講演会(聴講無料)  
 日時●5月22日[土] 13:30〜15:00  
 演題●「海を渡った日本工芸とジャポニスム」  
 講師●木田 拓也氏(武蔵野美術大学教授、本展監修者)  
 会場●講座室  
 定員●40名(要事前予約・申込先着順)
- ギャラリー・ツアー(担当学芸員による特別展示作品解説)  
 「ブダペスト国立工芸美術館名品展 ジャポニスムからアール・ヌーヴォーへ—日本を夢見たヨーロッパ工芸」  
 日時●4月25日[日]、5月2日[日]、16日[日]、6月6日[日]、20日[日]  
 11:00〜12:00  
 定員●各日20名(要事前予約・要観覧券)

- ギャラリー・トーク(担当学芸員による展示作品解説)  
 いずれも11:00〜(30分程度)
- 4月10日[土] やきものの装飾 刻む・彫る・印す・割る  
 5月8日[土] オブジェ陶造形の潜勢力IV  
 5月22日[土] 橋口五葉  
 6月12日[土] HOKUSAI★MANGA  
 6月26日[土] 十三代三輪休雪の茶陶  
 定員●各日10名(要事前予約・要観覧券)
- ※講演会、ギャラリー・ツアー、ギャラリー・トークの事前予約について  
 TEL: 0838-24-2400にて、①〜④をお知らせください。  
 ①参加を希望するイベント名 ②参加者の氏名 ③年齢  
 ④代表者の日中の連絡先電話番号
- ※ギャラリー・ツアー、ギャラリー・トークへのご参加には観覧券が必要です。  
 ※イベント詳細については美術館ホームページをご覧ください。
- ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、臨時的休館やイベントを中止・変更する場合があります。詳しくは当館ホームページをご覧ください。
- お問い合わせ TEL: 0838-24-2400  
 URL: https://www.hum.pref.yamaguchi.lg.jp/

- 交通アクセス
- 【新山口駅から】  
 ●直行バス「スーパーはぎ号」(約60分)で萩・明倫センター下車、徒歩約5分  
 ●防長バス(約95分)で萩バスセンター下車、徒歩約12分
- 【山口宇部空港から】【萩・石見空港から】  
 ●萩近鉄タクシー(乗合タクシー)約70〜80分(利用前日まで要予約)
- 【JR山陰本線】  
 ●JR萩駅から萩循環まわーるバス(西回り)約30分  
 ●JR東萩駅から萩循環まわーるバス(東回り)約30分  
 ●JR玉江駅から徒歩約20分
- 【自動車】  
 ●「中国自動車道」美祿東JCT経由、「小郡萩道路」絵堂ICから約20分  
 ●「山陰自動車道」三見ICから約10分、国道191号沿い



# H A G I 萩

題字は吉田松陰筆跡

SPRING ISSUE 2021

## 99







図1

ジャポニスムとは19世紀後半のヨーロッパにおいて日本の美術、服飾、建築などに対する関心が高まりをみせ、日本の影響を受けた作品がさまざまな分野で作り出されるようになった現象である。とりわけ、モネやドガやゴッホらが浮世絵の影響を受けて、思いがけない大胆な構図、輪郭線の効果、平坦で明るい色面などを取り入れて西欧の絵画表現に革新をもたらしたことは広く知られている。それと同じように、日本の工芸もまた19世紀後半の欧米の装飾美術家たちを熱狂させてその様相を変え、さらには19世紀末に花開くアール・ヌーヴォーの源泉ともなっていくのだが、それが工芸のジャポニスムである。



図2

明治初頭にオーストリア＝ハンガリー二重帝国で開催されたウィーン万博(1873)をはじめ、フィラデルフィア万博(1876)、パリ万博(1878)で日本の工芸と接触した欧米の人びとは、そこにみられる緻密で繊細な装飾や、生き生きとした生物の描写に驚嘆した。その頃のヨーロッパは歴史主義の時代であり、ゴシックやロココなどのリバイバルが横行していたが、過去の様式の表面をなぞるだけで本来の生命力を失っていた装飾美術の世界に再生の息吹を吹き込んだのが日本の工芸だった。

欧米におけるジャポニスムの工芸の展開については、おおよそ次のように四つの段階(タイプ)に分けて捉えることができる——①浮世絵などの図像イメージの流用、②日本工芸の装飾技法の研究、③自然への回帰、④釉薬や陶土など工芸素材そのものによる装飾。影響関係という「似ている／似ていない」といった表面的な類似点に目が向かいがちだが、工芸のジャポニスムにおいては、日本の装飾模様の根底にある自然へのまなざしや、素材と表現の関係にまで影響をおよぼすことになったのが興味深い。ここでは欧米の有力な製陶所などで作り出されたジャポニスム、アール・ヌーヴォー期の作品を同時代的に幅広く収集してきたブダペスト国立工芸美術館(1872年設立)のコレクションに基づいて工芸のジャポニスムの四つの段階(タイプ)のそれぞれの作例を紹介しておきたい。



図3

ジャポニスムの第一段階においてあらわれたのは浮世絵など日本からもたらされた美術品に描かれた図像をそのまま流用したタイプのものだった。たとえば、イギリスのミントンの皿には睡蓮、トカゲ、貝、アメンボ、カエルがまるで『北斎漫画』のように戯画風にいきいきと描かれている(図1)。だがこの段階において見られた浮世絵などの図像イメージの流用というのはあくまで表面的なものであり、物珍しい異国趣味的な装飾図案のレパートリーのひとつというレベルのものだった。

日本の工芸が欧米にさかんに輸出されるようになると、こんどはそこにみられる装飾技法を取り入れようとする動きがあらわれる。たとえば、フランスのジョゼフ＝テオドル・デックによる《菊花に蝶文皿》(図2)ではその配色だけでなく、下地を埋め尽くすように斜格子文を緻密に描き込んでから黄色の釉彩を施す「地紋つぶし」の手法を取り入れている点で九谷焼の加飾技法を模倣していることは明らかであり、ジャポニスムの第二段階を示している。

やがて欧米の装飾美術家は、日本の工芸の魅力の根底にある自然そのものに目を向けるようになる。自然のなかの生物が生き生きと描かれた日本の工芸に魅了された西洋の装飾美術家は、草花や鳥や昆虫などを写生的に描いた器を作り出すようになるが、これが工芸のジャポニスムの第三段階である。例えば、デンマークのロイヤルコペンハーゲンの《野蔓葡萄枝文花瓶》(図3)では、写生風に野葡萄のいきいきとした姿が描かれ、さらに釉下彩の効果も加わって、植物のみずみずしい生命そのものの輝きを感じさせる。

19世紀終盤には素材そのものの装飾効果に対する

関心が高まり、釉薬を流しかけ、焼成時の思いがけない色の変化をねらったいわゆる窯変タイプの陶磁器が作られるようになるが、これがジャポニスムの第四段階である。上絵付による華やかなテーブルウェアを生産してきたハンガリーのヘレンドにおいても、19世紀末には高火度焼成による流れ釉の磁器作品が作り出されている(図4)。その一方で、同じハンガリーで主に装飾タイルを生産していたジョルナイでは、ラスタライをベースとしたエオシン彩が開発された。例えば《葡萄新芽文花瓶》(図5)では玉虫色の輝きを見せるエオシン彩が自然の風景の中の光の変化を感じさせる効果を生み出している。

このようにジャポニスム時代に日本の工芸に触発されて芽生えた自然への関心と素材を生かした表現の探究は、やがてアール・ヌーヴォーへと展開していくことになる。(木田拓也、武蔵野美術大学教授)



図4



図5

## 【図版】

1. 《セラドン釉睡蓮に蜥蜴と貝図皿》ミントン社、1878年
2. ジョゼフ＝テオドル・デック《菊花に蝶文皿》1877-1878年
3. ベルタ・ナタニエルセン(絵付)《野蔓葡萄枝文花瓶》ロイヤルコペンハーゲン磁器製作所、1903-06年
4. イエネー・ファルカシュハージ＝フィッセル《下無形花瓶》ヘレンド製陶所、1900年
5. ジョルナイ陶磁器製造所《葡萄新芽文花瓶》1898-99年

※所蔵はすべて、ブダペスト国立工芸美術館。

# 工芸のジャポニスムの展開

ブダペスト国立工芸美術館のコレクションから



# JAPONISM AND ART NOUVEAU

PHASES OF JAPONISM IN WESTERN DECORATIVE ART—MASTERWORKS FROM THE COLLECTION OF THE BUDAPEST NATIONAL MUSEUM



②



③



①

19世紀後半、日本の文物がヨーロッパに流入したことで熱狂を巻き起こした「ジャポニスム」は西洋の工芸品やデザインに影響を与えました。その影響は当時の西洋諸国を席巻していたアール・ヌーヴォー様式にも大いに見られます。ジャポニスムが流行のスタイルとなった一方、ヨーロッパ諸国の工芸美術館は日本の漆工芸や陶磁器を収集しました。ブダペスト国立工芸美術館も1872年の開館当初から日本の美術品を積極的に収集してきたのです。本展は、日本の美術がどのようにして西洋に影響を与えたか、そして日本美術を西洋がどのように解釈したか、その歴史を辿るものです。ジャポニスムとアール・ヌーヴォーをテーマに、ブダペスト国立工芸美術館の所蔵品から、ティファニー、ガレ、ドーム兄弟などの名品とともに、ジョルナイ陶磁器製造所などハンガリーを代表する作品群を含めて約170点を紹介します。

①エミール・ガレ《洋蘭文花器》1900年頃 ②ジョゼフ・テオドル・デック《花鳥文花器》1880年頃  
③ジョルナイ陶磁器製造所《葡萄新芽文花器》1898-1899年 ※作品は全てブダペスト国立工芸美術館蔵

2021年  
4月24日(土)～6月20日(日)

休館日 ◆4月26日(月)、5月10日(月)、5月17日(月)、  
5月24日(月)、5月31日(月)、6月14日(月)

開館時間 ◆9:00～17:00(入場は16:30まで)

観覧料 ◆一般 1,500(1,300)円、学生 1,300(1,100)円、  
70歳以上の方 1,200(1,000)円

※( )内は前売りおよび20名以上の団体料金。  
※18歳以下の方および高等学校、中等教育学校、特別支援学校の生徒は無料。  
※身体障害者手帳、戦傷病者手帳、精神障害者保健福祉手帳の提示者とその介護者(1名)は無料。  
※前売券は、ローソンチケット(Lコード62371)、セブンチケットでお求めになれます。  
※割引券は県内各プレイガイド及び道の駅、旅館等観光施設に設置しています。  
※開催中の普通展示も御覧いただけます。

主催…ブダペスト展実行委員会(山口県立萩美術館・浦上記念館、読売新聞社、KRY山口放送)  
後援…ハンガリー大使館、ハンガリー文化センター、山口県教育委員会、萩市、萩市教育委員会  
協力…ルフトハンザカーゴAG、ルフトハンザドイツ航空会社  
企画協力…アートインプレッション

## イベントのご案内

※新型コロナウイルス感染状況によって変更になる可能性があります。

### ① 開幕記念講演会 ※聴講無料・要事前申込

講師 ガブリエラ・パツラ氏(ブダペスト国立工芸美術館キュレーター、本展監修者)  
日時 4月24日(土) 13:30～15:00  
会場 講座室(40席)

### ② 講演会 ※聴講無料・要事前申込

講師 木田拓也氏(武蔵野美術大学教授、本展監修者)  
日時 5月22日(土) 13:30～15:00  
演題 「海を渡った日本工芸とジャポニスム」  
会場 講座室(40席)

### ③ ギャラリー・ツアー(担当学芸員による展示品解説) ※要観覧券・要事前申込

日時 4月25日(日)、5月2日(日)、5月16日(日)、  
6月6日(日)、6月20日(日) 11:00～12:00  
会場 本館2階展示室(最大20名)

ひかる  
光ミュージアム所蔵

# 美を競う

— 肉筆浮世絵の世界 —

2021年

7月3日(土)～9月5日(日)

休館日 ◆7月12日(月)、19日(月)、26日(月)、  
8月2日(月)、10日(火)、23日(月)、30日(月)

開館時間 ◆9:00～17:00(入場は16:30まで)

観覧料 ◆一般 1,100(900)円、70歳以上・学生 900(700)円

※( )は前売りおよび20名以上の団体料金。  
※18歳以下と高等学校・中等教育学校・特別支援学校の生徒は無料。  
※身体障害者手帳、戦傷病者手帳、精神障害者手帳をご提示の方とその介護者(1名)は無料。  
※前売券は、ローソンチケット(Lコード62374)、セブンチケットでお求めになれます。  
※割引券は県内各プレイガイド及び道の駅、旅館等観光施設に設置しています。

主催…肉筆浮世絵展実行委員会(山口県立萩美術館・浦上記念館、毎日新聞社、tvsテレビ山口)  
後援…山口県教育委員会、萩市、萩市教育委員会  
協力…エフエム山口  
特別協力…光ミュージアム  
監修…鈴木浩平(美術史家)、故・永田生慈(美術史家・北斎研究者)  
企画協力…アートシステム



②



③

①藤屋《旅の女》(部分)  
紙本着色一幅  
享和(1801-04)～文化年間(1804-18)前期頃  
②宮川長春《立ち美人》(部分)  
絹本着色一幅  
正徳～享保年間(1711-36)  
③淡齋英泉《立ち美人》(部分)  
絹本着色一幅  
文政年間(1818-30)

浮世絵は木版による作品が大半を占めますが、絵師が直接筆をとり、絹や紙のうえに一筆一筆丁寧に描いて仕上げられた肉筆浮世絵にも、近年高い関心が寄せられています。

本展では、これまで大々的に公開されることがなかった光ミュージアム(岐阜県高山市)所蔵の肉筆浮世絵の名品を、初めて一挙にご紹介します。肉筆浮世絵ならではの、やわらかく優美な魅力をご堪能ください。



①

## イベントのご案内

※実施詳細は後日HP、チラシでお知らせします。  
※新型コロナウイルス感染状況によって変更になる可能性があります。

### 記念講演会 ※聴講無料・要事前申込

講師 鈴木浩平氏(本展監修者・美術史家)  
日時 7月3日(土) 13:30～15:00  
演題 「肉筆浮世絵にみる美人画の魅力」  
会場 講座室(40席)

### ギャラリー・ツアー(担当学芸員による展示品解説) ※要観覧券・要事前申込

日時 毎週日曜日 11:00～12:00  
会場 本館2階展示室(最大20名)



# はしぐちごよう 橋口五葉

展示室1  
浮世絵

会期

令和3年(2021)  
4月20日(火)  
5月23日(日)

橋口五葉(1881~1921)は、装丁そして商業デザインや装飾絵画の分野において才能を発揮しました。また、浮世絵版画の学術的な研究と復刻制作を行い、その成果を自らの版画作品として形にしています。

大正5年(1916)、版元の渡邊庄三郎のもとで「浴場の女」を発表後、同7年(1918)には私家版「耶馬溪」を皮切りに次々と制作するも、3年後に41歳の若さで急逝しました。近代的な感覚で浮世絵版画のエッセンスを洗練させた五葉の作品は、いずれも版画史に残る傑作です。

今回は、画稿や没後に出版された版画作品を併せて展示し、五葉の構想した版画芸術をご紹介します。

《髪梳ける女》多色摺木版 大正9年(1920)



映画『HOKUSAI』を応援!!

# HOKUSAI☆MANGA

展示室1  
浮世絵

会期

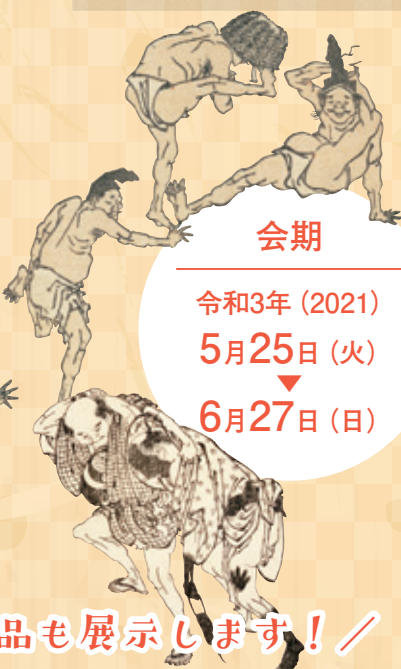
令和3年(2021)  
5月25日(火)  
6月27日(日)

圧倒的な描写力、奇抜な発想によって描かれた数々の作品や北斎自身の生涯は、時代を超え、現代においても人々を魅了しつづけています。

北斎の画業のなかでも重要なひとつとされる『北斎漫画』には、北斎が興味の赴くままに描いた、ありとあらゆるものが収録されています。文化11年(1814)に初編が出されてから、明治11年(1878)に15編で完結するまで60年以上も刊行が続けられ、江戸のベストセラーと言っても過言ではありません。

当初は、日本全国にいた北斎の門人に向けた絵手本として制作されましたが、刊行後は一般鑑賞者の間でも親しまれました。さらに、海外の芸術家へも多大な影響を与えたことはご存知のとおりです。

本展では、これまでまとめて展示する機会のなかった『北斎漫画』を中心に、その他の版本や浮世絵版画をあわせてご紹介します。



この名品も展示します! /



葛飾北斎《富嶽三十六景 山下白雨》横大判錦絵 天保2-5年(1831-1834) そのほか：葛飾北斎『北斎漫画』半紙本 八編、十編より(部分)

# こばやしきよちか こうせんが じだい 小林清親 —光線画の時代—

展示室1  
浮世絵

会期

令和3年(2021)  
6月29日(火)  
8月1日(日)

小林清親(1847~1915)は、幕末から明治初期にもたらされた西洋絵画や印刷、写真に学んだ陰影法や明暗法などの手法を用いて、光と影を合理的に表現する「光線画」という新しい様式の風景版画を確立しました。明治9年(1876)に版元の松木平吉から5点の作品を発表後、版元を福田熊次郎へとかえ、明治14年(1881)まで出版された計93図は光線画の代表作であり、また「東京名所図」という一連のシリーズとして見なされています。

そこには文明開化のさなかに江戸の風情を残す東京の風景が、詩情豊かに表現されています。

今回は同シリーズを中心に、浮世絵の様式を踏襲した「武蔵百景」、日本画のような淡彩色が特徴の「日本名勝図会」などをあわせてご紹介します。

《東京小梅曳船夜図》横大判錦絵 明治9年(1876)



# りょう さそ 涼を誘うかたち

展示室8  
陶芸

会期

令和3年(2021)  
6月29日(火)  
9月5日(日)

暑さが厳しくなる夏。日本人は、涼を得るために様々な知恵や工夫を暮らしに取り入れてきました。茶の湯の大成者である千利休は、「夏は涼しく、冬は暖かに」の言葉を残しており、その教えに従い茶の湯では、茶室のしつらいや様々な道具によって五感を刺激し、涼しさを魅力的に見せる演出が生み出されてきました。四季の変化が明快な日本では、その季節の厳しい変化を逆に敏感に感じ取り、味わい、慈しんできたといえます。

このたびの展示では、当館所蔵品を中心とした近現代の陶芸作品の中から、一抹の涼をもたらしてくれる涼味たよう作品を選び紹介します。暑い夏を少しでも涼しく楽しんでいただけますと幸いです。

加藤卓男《青釉高台鉢「風韻」》1994年頃 当館蔵(染野義信氏・啓子氏御遺族寄贈)





# 特選鑑賞室

特選鑑賞室は収蔵する浮世絵版画のなかから名品1点を展示し、じっくりと鑑賞していただくコーナーです。令和3年度は以下の12点をご覧ください。

## やきものの装飾 彩色

展示室2  
東洋陶磁

会期

令和3年(2021)  
5月25日(火)  
9月5日(日)

やきもの(陶磁器)には古今東西に多くのバリエーションが存在し、この多様性は、やきものに「装飾」を施すことによって生み出されている部分が多岐にわたります。

やきものの装飾には、胎土を彫って形状を変化させる彫刻、顔料を用いて抽象や具象の文様を描く彩画、釉に含まれる金属化合物の種類や割合から発色を変化させ彩色する色釉などの方法があります。

今回紹介する彩色、すなわちやきもので色を表現するためには、胎土の原料(鉄分など)、色釉を掛ける、焼成時の酸化炎や還元炎を調整するなどの要因が関わってきます。

本展を通じて、職人たちの緻密な技術を内包した彩色のやきものを、お楽しみください。



三彩印花牡丹文皿 遼時代・11世紀

## 和田的 CONTRAST —光と陰—

茶室

今年度の茶室展示は、千葉県を拠点に活動する陶芸家、和田的によるインスタレーションです。鋭敏なフォルムが印象的な白磁によって構成された茶室空間にて、作品が魅せる光と陰の繊細な表情をお楽しみください。

会期

令和3年(2021)  
4月3日(土)  
令和4年(2022)  
3月27日(日)

2021年

4月

東洲斎写楽  
二代目中島三浦右衛門  
と初代中村富十郎



問判錦絵  
寛政6年(1794)

本作の左側には、寛政6年に亡くなった二代目市川門之助が描かれた図が並びます。当時、すでに他界していた三浦右衛門と富十郎が門之助を冥界へ招き入れています。

5月

鳥高斎栄昌  
お高祖頭巾

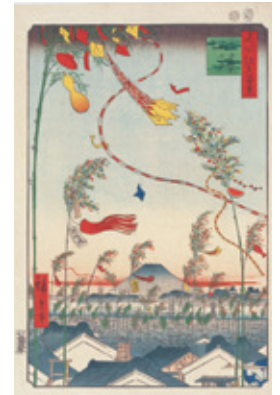


大判錦絵  
寛政8年(1796)頃

お高祖頭巾とは、女性が防寒のために用いた被りものと目録のことです。「ごま摺」と呼ばれる摺り技法によって、黒い布に包まれた頭がうっすらと透ける様子を再現しています。

6月

歌川広重  
名所江戸百景  
市中繁栄七夕祭



大判錦絵  
安政4年(1857)

「名所江戸百景」は全120枚(二代広重が描いた1枚と目録を含む)のシリーズで、広重の最晩年の大作として知られます。家々に掲げられた七夕飾り、風に吹かれて空を漂っています。

7月

二代歌川広重  
名所江戸百景  
赤坂桐畑  
雨中夕けい



大判錦絵  
安政6年(1859)

雨の日のしっとりとした雰囲気が漂う作品です。二代広重を襲名した歌川重宣が描いたもので、「二世廣重畫」と署名されています。

8月

喜多川歌麿  
青楼仁和嘉女芸者部  
大万度 萩江  
おいよ 竹次



大判錦絵  
天明3年(1783)

萩江節の芸者おいよと竹次が華やかな衣装に着替えています。8月には、芸者や仲間たちが仮装や即興の寸劇をしながら吉原の町を練り歩くと、俄が行われました。

9月

歌川広重  
名所江戸百景  
大はしあたけの夕立



大判錦絵  
安政4年(1857)

後期印象派の画家フィンセント・ファン・ゴッホが油絵で模写したことで知られる作品です。夕立に襲われ、雨が激しく降る様子が見事に描写されています。

10月

葛飾北斎  
風流無くてなくせ  
遠眼鏡



大判錦絵  
享和期(1801-04)頃

「無くて七癖」は、人には多かれ少なかれ癖があるという意味の諺です。女性が遠眼鏡を覗く姿から、見物して遊び歩くのが好きな物見遊山の癖が描かれているとされています。

11月

喜多川歌麿  
難波屋おきた

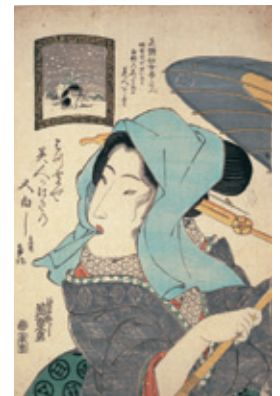


大判錦絵  
寛政5年(1793)

おきたは浅草隨身門脇にあった水茶屋難波屋の評判娘です。煎餅屋の高島おひさ、吉原芸者の富本豊雄とあわせて、寛政の三美人と称されました。

12月

溪斎英泉  
美艶仙女香  
はつ雪や



大判錦絵  
文政(1818-1830)中期

南伝馬町三丁目にあった坂本屋の白粉「美艶仙女香」の宣伝をかねた美人画です。「はつ雪や美人のはきの又白し」という句が添えられています。

2022年

1月

鳥居清長  
大坂新町西榎屋  
琴鶴太夫  
りきの ふじの



大判錦絵  
天明6年(1786)頃

大坂の新町は、京の鳥原、江戸の吉原と並ぶ幕府公認の遊郭でした。琴鶴太夫が、二人の禿りきの、ふじのを連れて、客が待つ揚屋に向かう道中の様子が描かれています。

2月

二代歌川広重  
諸国名所百景  
周防岩国錦帯橋



大判錦絵  
安政6年(1859)

初代広重の晩年の大作「六十余州名所図会」や「名所江戸百景」にならって、二代広重が襲名後に制作したシリーズ。初代広重も描いた錦帯橋を、二代広重は雪景色のなかに描いています。

3月

鈴木春信  
風俗四季哥仙  
三月



中判錦絵  
明和(1764-1772)中期

波打ち際で、潮干狩りをする若い男女を描いています。「こきませに色をつくしてよる貝は錦のうらとみゆるなりけり」という歌が添えられています。



